

むやみに吠えないようにしておく

普段はおとなしいペットでも、たくさんの人や動物が集まる避難所などでは慣れない環境によるストレスで鳴いたり吠えることもあるでしょう。迷惑にならないよう、日頃からむやみに吠えないようにしておくこと、また、ストレスをやわらげられるよう、犬が吠える原因を知り、対策を考えておきましょう。

●要求によるもの

日頃から、犬が吠えた時に要求をかなえたり関心を向けていると、犬は要求が通るまで吠え続けるようになります。要求吠えのときは犬に関心を示さず無視をして、静かにしていたらほめて要求をかなえましょう。食べ物や飲み物がない、散歩に行きたいなど本来満たすべき要求もありますが、避難所では吠えて迷惑になっている犬をそのままにすることはできません。体が痛い、具合が悪いなど体調不良をうったえている場合もあるので、よく観察して、犬が吠える原因と対策を考えましょう。



●恐怖や不安によるもの

社会化が不十分だと見慣れない人や物に恐怖を感じたり、常に飼い主がそばにいる生活では飼い主と離れただけで強い不安（分離不安）を感じて鳴いたり吠えたりすることがあります。適切な社会的経験（人や動物、音や物に慣らす）を積みせ、安心できる場所を作ってペットだけで過ごす時間を作ることが大切です。



体のどこでもさわられるようにしておく

どこでもさわられるようにしておくことで、災害時の健康チェックや応急処置、病院に行ったときなどにも役立ち、安心です。犬の横に座り、優しく声をかけながら、全身をさわってみましょう。足先、口元など、先端部分は敏感なので、嫌がる場合にはフードを使いながら慣らしていきましょう。犬が気持ちいいと思う場所を探してなでるのもよいでしょう。

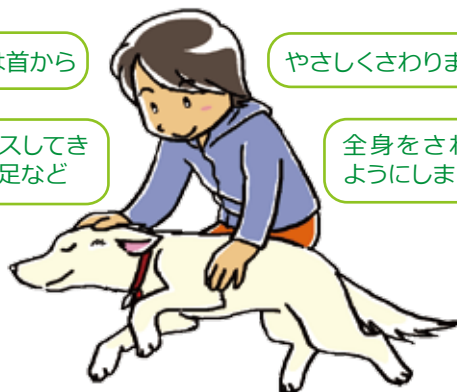
※たたいて叱ったり、呼んで手元に来たときに叱ると、人の手を怖がるようになるので注意しましょう。

最初は首から

やさしくさわります

リラックスしてきたら耳や足など

全身をさわられるようにします



●他人の手を怖がる場合

犬好きの友人などに協力してもらい、飼い主以外の他人にさわられても大丈夫なようにしておきましょう。

1 おやつを持ち、目をあわさないように犬と横向きに座る。

2 犬が近くまで来たら、手のひらを開いて、下からおやつをあげる。

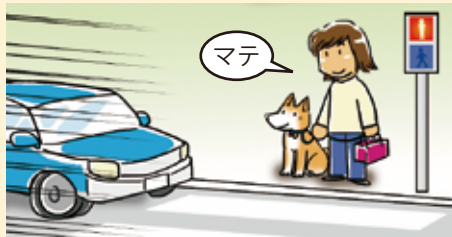
3 食べられるようになってきたら、反対側の手で、やさしく犬にさわる。

※「急に近付かない」「上から手を出さない」「大きな声を出さない」などが大切です。

※猫は動くものに強く反応します。おもちゃなどを動かして、スキンシップを図ってみましょう。

しつけの要
マテとオイデ

いろいろある犬のしつけのうち「マテ（制止）」と「オイデ（呼び戻し）」は特に重要です。社会に受け入れられやすくなるほか、交通事故や逸走防止、災害時などにも役立ちます。



ペットの健康管理と応急処置

感染症の予防は日頃から

避難所には人だけでなく、多くの動物も集まります。非常時は衛生状態や栄養状態が悪くなり、ストレスで免疫力が低下することもあります。感染症の発生を防止するため、日頃から、ノミやダニなど寄生虫の駆除や予防、感染症の予防は必ずしておきましょう。預けることになっても、感染症予防をしてあることが条件の場合もあります。



避難生活での健康管理

災害は動物にも大きなストレスをあたえます。避難所など馴れない環境では体調も崩しがちですので、いつも以上に健康状態に注意しましょう。特に猫は具合が悪いことを隠そうとするため、よく観察してください。獣医師の巡回診療を利用するなど、異常を感じたらできるだけ早く診察を受けましょう。

日常の健康チェックのポイント

- 食欲(食べない、ムラがある)や飲水量(多い、少ない)
- 嘔吐の有無、回数、吐いたものの形状
- 便(下痢や便秘、血便)や尿(多い、色が濃い、血尿)の状態、回数
- 呼吸の様子、咳、くしゃみ、鼻水
- 眼やに、眼の状態(赤い、腫れている、涙が多い)

- 体温(普段から腹部や耳など毛のない部分を触って体温を覚えておきましょう。正確には体温計で直腸温を測ります)
- 脈拍(後脚の付け根に指をあてて測ります)
- 歩き方(ふらつき、斜傾)
- 脱水症状(背中など皮膚をつまんで放しても戻らない)

緊急時の応急処置

●動物の運び方

動物の意識がないときは、息ができるよう首の角度に注意しながら、毛布などの丈夫な布や平らな板に乗せて運びます。動物をゆすったり必要以上に動かさないようにします。普段はおとなしくても、痛みや興奮などで咬みつくことがあります。布でくるむなどの対策をとり、なるべく患部を動かさないように運びます。



●骨折や打撲

痛がっても傷口がない場合はまずは患部を冷やし、動かさないようにします。明らかに変な向きに曲がっていたり、異常に腫れているなど、骨折が疑われるときは元に戻そうとしないようにしましょう。

●ケガ(止血)

出血があまりないときは、まずは傷口の汚れを流水で洗い流します。水がない時はできるだけ汚れを取り除きます。出血があるときは、乾いたきれいな布で傷口を直接強く押さえます(直接圧迫止血)。包帯やハンカチできつく巻くことも同様の効果があります。



●やけど

速やかにきれいな流水で患部を5分以上冷やします。水がない時は、冷やした布をこまめに替えて冷やします。全身または広範囲のやけどの場合は、水をためた浴槽につけたり水に浸したタオルで全身を包むようにして冷やします(低体温にならないよう注意)。皮膚が赤く腫れたり水ぶくれができている場合は、冷やした後に傷口をラップなどで包んで、病院に運びます。

●熱中症

体が異常に熱い、息が荒い、舌が異常に赤い、意識がない、意識があつて倒れたまま動かないなどがみられ、命に関わります。速やかに涼しい場所へ移動し、体に水をかけ、後頭部、足先、首、脇、後ろ足の付け根を重点的に冷やします。体温が下がっても脳や内臓に障害がおこることがあるので、速やかに病院に運びます。



災害後にペットと過ごす注意点

自宅が危険な場合や避難指示が出ている場合はペットと避難場所に同行避難します。また、避難所での対応については、災害の規模や収容施設の大きさ、被災者の数などにより様々です。安全な状態であれば、避難所に行かずに自宅にとどまるという選択肢もあります。状況に応じていろいろなシーンが想定されますので、自分とペットの安全を優先して選ぶようにしましょう。

避難場所…緊急で一時的に避難する場所 避難所…災害等により自宅に戻れない場合等において一定期間避難生活をする場所

避難所で生活する

避難所では人とペットは別の場所で生活し、ペットの世話は飼い主が自ら行うことが原則です。いつも以上に周りの人に配慮し、飼育スペースや排泄物の処理など決められたルールを必ず守りましょう。飼い主同士で助け合い飼育エリアの確保や清掃を行えるとよいでしょう。また、ペット（特に猫）は1日のほとんどをケージの中で過ごすことが多くなるため、ケージを布で覆って目隠しをしたり、段ボールで簡易ハウスを作るなど、飼育環境を整えて、ストレスを減らす工夫をしましょう。



自宅で生活する

自宅が安全なら、住み慣れた自宅にいる方がペットも安心です。ただし救援物資と情報は避難所に集まるので、必要に応じて取りに行くようにしましょう。人は無理でもペットが自宅で生活できる状況なら、避難所から世話に通う方法もあります。二次災害の危険があるときは、同行避難をしましょう。

車の中で生活する

周りに気を使わず過ごせませんが、狭い空間では、エコノミークラス症候群にならないよう定期的には車外に出て動いたり、水分をこまめに取りましょう。また、車内温度は思ったよりも上昇するため、人もペットも熱中症の危険があります。温度や湿度を確認するなど注意が必要です。

施設に預ける

避難所に入れない場合や、飼い主の事情、ペットの健康状態などにより、自治体の収容施設、動物病院、動物保護団体などで預かってもらう場合があります。家の再建まで長期に預けるだけでなく、家の片づけや仕事のために数日または数時間預けることもあります。預ける前に条件や期間、費用等について必ず確認し、誓約書なども交わしておきましょう。

平成28年4月に発災した熊本地震で避難生活をした飼い主の方から、様々なご意見をいただきました。

ペット飼い主からの声



避難所における獣医師による問診

ふんの放置を注意される飼い主が多く、トラブルになった

ペットの飼い主同士で「飼い主の会」を作って協力し合えた

テント内で過ごす時には、脱水症状に気がついた

ペットがいることでコミュニケーションのきっかけになった

病気のペットの療法食を備えていなかったのが困った

屋内で運動させられる場所があればよかった

飼い犬がおとなしい性格だったため、気兼ねなく過ごせた

余震などで犬が吠え、遠慮して自宅に帰る人もいた

獣医師の巡回があったので相談もできとても助かった

車中泊していたペットがストレスで吠えるようになった

日頃からトイレのしつけをしていたのでトラブルはなかった


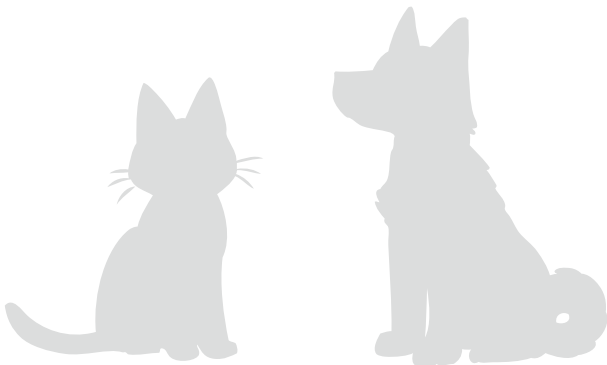
支援物資の慣れないフードで下痢や嘔吐がみられた



避難所のペット飼育専用施設の例

ペットや飼い主の情報を記入して、防災グッズなどと一緒に保管しておきましょう。

◆ペットの情報◆

顔のアップの写真 (できれば飼い主と一緒に写っているもの)		全身の写真 (できれば模様や尻尾の形など特徴がわかるもの)	
			
名前	性別	オス・メス / 不妊去勢 済・未	
種類	体重		
毛色	生年月日	()歳	
マイクロチップ	未・済 (番号)	鑑札番号 (犬)	
ワクチン接種	未・済 (種類)	最近の接種日	年 月 日
既往症 (持病、飲んでいる薬、アレルギーなど)			
性格			
特徴			

◆飼い主の情報◆

氏名	家族の氏名
電話 自宅	携帯
メール ①	②
住所	
非常時の連絡先	電話
かかりつけの動物病院	電話



環境省
Ministry of the Environment
発行：環境省自然環境局総務課動物愛護管理室
所在地：〒100-8975 東京都千代田区霞が関 1-2-2
<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/>
編集・イラスト：つしまみかこ
平成29年9月発行



〇お問い合わせやご相談は、お近くの都道府県、政令市、中核市等の担当窓口へ